

■今年の国語は！？

男子と女子の差が最接近。合格者平均の差は7.0！

■出題形式

今年度（'20年度）も、論説文、物語文、漢字という形式に変化はなかった。小問数も2問減ったが誤差の範囲といえる。また、記述問題は実質6問、ぬき出しも実質2問出題された。記述は、昨年度（'19年度）に比べ問題数、指定字数も増えたが、むしろ平均点は上昇した。は、漢字10問で例年通り。

難易度については、昨年度に続き最高点・平均点ともに適正なレベルに収まったといえる。

女子	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	3問	3問	3問
小問数	16問	22問	20問
配点	120点	120点	120点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	115/120	104/113	107/109
受験者平均点	80.4/89.5	72.7/84.8	76.3/85.4
合格者平均点	88.2/98.7	80.3/91.3	85.7/92.7

※ 3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点が国算理の合計点の1.25倍が国算社の合計点の1.25倍のいずれかのうち最も高い点で判定。

■出題内容

論説文：『世界史を大きく動かした植物』 稲垣 栄洋 約4700字 PHP研究所

物語文：『めんたいびりり』 東 憲司 約4800字 集英社

漢字 10問

入試によく出題される『植物はなぜ動かないのか 弱くて強い植物のはなし』『キャベツにだって花が咲く 知られざる野菜の不思議』などの著書がある、植物学者の稲垣栄洋の文章。人類の歴史を植物（農耕）の視点から考察したもので、出題部分は、農業が格差を生み、富を求めて争うようになっていくという内容。順を追った論の展開で、小学生にも理解しやすい内容である。記述問題も問2や問8のように骨子がわかりやすかったり、問5のように文末が指定されていたりしたことにより、解答欄を空白にしたり的外れの答えを書いたりした受験生は少なかったと思われる。

明太子を研究開発して広めた実在の人物をモデルにした物語。出題範囲は、明太子づくりを決意するまでの場面。ストーリーの展開もわかりやすく、平易な文章で読みやすいので、内容はすぐに読み取れただろう。設問も、よく問われる言葉（問2「バツが悪い」、問3「ぼかんとしている」、問8「溜息をついた」など）から、心情や様子を答える問題であり、高得点に結びつきやすかったと思われる。

二字熟語が10問で難しいものは無かった。当然満点が望ましいが最低でも8割は正解できる力をつけたい。

■合格に向けての対策

女子の平均点が男子を上回るという状況に今年度も変化はありませんでしたが、冒頭にも書いたように、合格者平均点の差は7.0点と過去最も縮まる結果でした。女子のレベルに影響され、男子の受験層のレベルも上昇した可能性があります。女子の学力層は定まってきたようですが、男子はしばらく上昇傾向が続くのではいかと思われます。来年度（'21年度）の受験者は今年度の問題で、男子90点、女子95点を目安とするといいでしょう。

高槻中学で出題される文種は決まっているわけではなく、また日程による偏りもありますが、物語文と論説文（説明文含む）の組み合わせが多く、イレギュラー的に随筆が入るようです。したがって、物語文、論説文を中心に随筆文までしっかり対策する必要があります。また、書き出しや文末を提示した記述が目につきました。この出題形式はこれまでもありましたが、特に今年度は多く見られました。たまたま出題の都合であったのか、方針の変化であったのか等はわかりませんが、来年度に出題されても対応できるように準備しておく必要があります。今年度は文章整序問題が出題されましたが、過去には語句の整序問題や段落の整序問題が出題されているので、整序問題の対策は必須です。

漢字は、難解な言葉はほとんど出題されませんが、一定以上のレベルの言葉や用字を間違えやすい言葉は、徹底的に練習しなければなりません。また、来年度は新学習指導要領が全面実施されるので、新たに小学校で習うことになった漢字（都道府県名を漢字で指導できるようにするために）の内「熊」「井」「香」「縄」「沖」など、都道府県名以外の言葉にも見えそうな漢字は注意する必要があります。

■今年の算数は！？

**これぞ「思考力・表現力・判断力」入試。ただし、最後までたどり着けない…。**

■出題形式

’17 年度から試験時間が再び 60 分に戻った（以前は 50 分の年度と 60 分の年度がある）。**1**は計算問題 4 問と小問 1 問，**2**以降は大問形式になっている点についての変更はない。昨年度（’19 年度）からの変更点は、今年度（’20 年度）は**1**(5)の小問が 1 問になった点のみである。過年度と比較しても、形式面での変化自体は最小限に留まっている。

’18 年度から、大学入試改革に迅速に対応すべく、最後の小問である**5**で、求め方を書かせるようになった。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
制限時間	60 分	60 分	60 分
大問数	5 問	5 問	5 問
小問数	18 問	20 問	17 問
配点	120 点	120 点	120 点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	117/120	99/114	107/112 点
受験者平均点	61.8/73.8	52.2/60.5 点	49.7/59.2
合格者平均点	78.2/91.9	68.1/75.3	63.1/75.3

※ 3 科受験は、国算理の合計点の 1.25 倍で判定。4 科受験は、国算理社の合計点が国算理の合計点の 1.25 倍が国算社の合計点の 1.25 倍のいずれかのうち最も高い点で判定。

■出題内容

- 1**[1](1)分数・小数の四則混合計算 (2)分数の計算(分配法則の活用) (3)分数・小数の四則混合計算  
(4)未知数を求める計算 [2]規則性(一の位の数字を調べる問題)

- 2**[1]立体図形(展開図) [2](比と平面図形) **3** 速さ(比)

- 4**平面図形・立体図形(比と面積・相似・回転) **5** 場合の数・論理

**1**[1](1), (2), (3)は計算問題。(2)分配法則を活用すれば速く解ける。(3)分数と小数を自由自在に使いこなすとよい。(4)未知数を求める問題。計算できるところは事前に計算すること。**2**[1] $1 \times 1 + 2 \times 2 + 3 \times 3 + \dots + 49 \times 49 + 50 \times 50$ の和の 1 の位を調べる基本的な規則性の問題。**2**[1]展開図に文字を記入する問題。難しくはないが時間がかかる。**2**[1]は平易な 30° 問題。(2)差がつく問題。HQ と FQ を BC と交わるまで延長すれば、すぐに求められるが、延長の方法で迷った受験生が多かった可能性はある。試験中では解けそうで解けない 1 問。後回しにしてもよかった。**3**速さに関する問題。(1)(2)は「速さ・時間・距離」を、比を用いて整理すればすぐに解ける。(3)差がつく問題。面積図でも(面積図の見方は複数ある)、状況図からの消去算でも解ける。また、「予定通りの時間」を「平均速度」で進んだと見れば、速さの差の比(5:3)から、所要時間の比(3:5)を調べられる。学習効果が非常に高い良問だが、受験生のレベルを考えると、できなくても差はつかない。解法が思いつかなければ後回しにすべき。**4**(1)(3)は基本的な比と平面図形・相似に関する問題。(2)回転体の半径さえわかれば簡単に解ける。**4**を完答できたかどうか合否の分かれ目になった。**5**(1)基本的な組み合わせの問題。(2)(3)は理由説明の問題。「矛盾点」は明示されているので、説明しやすい問題となっている。

途中に**2**[2](2)や**3**(3)のような難問がはさまっているために、最後までたどり着けなかったか、もしくは途中で力尽きた受験生が相次いだものと思われる。今年度は、実力の有無に関係なく、どうにかこうにか最後までたどり着いた要領の良い受験生が合格していったであろう。問題そのものはとても良く、今後の受験生にとっては学習効果の高いものばかりである。しかし、数学につながる算数力を判定するための入試問題という観点から見ると、些か疑問符のつく問題構成であった。

■合格に向けての対策

学校の想いと試行錯誤が問題の構成と内容に如実に表れています。昨年度と比較して、記述問題がより答えやすくなっていたり、総合的な難易度が若干下がったりしていますが、昨年度と今年度の平均点の低さ(伸び悩み)を見ると、まだまだ構成と内容が、レベルが上がっているはずの受験生の実態を上回るものになっていると言わざるを得ません。よって、来年度(’21 年度)は現状を考慮すると、難易度そのものは今年度並みか、それよりもやや難化することを見越しておいてください。

高槻中が入試で確認しているのは、男子校時代から変わらず、数学をスピーディに学習できる力があるかどうかです。よって、計算力・知識量・条件整理力・読解力を問う入試になり、中学数学を履修上で差がつく次の①～③の分野が頻出となります。①数の性質・場合の数 ②方程式につながる文章題(つるかめ・差集・濃度・商品売買)。③図形では平面図形の相似、立体図形の回転。加えて、「速さ」に関する問題も、条件整理の力を問うために、継続的に出題されています。

上記の観点から、来年度以降へ向けて、次の①～⑤の実践をしてください。

- ①毎日計算練習し、全問正解し続けること。 ②高槻中の過去問の中で比較的難易度の高い問題(最後の大問は求め方をしっかり書くこと。)をテスト形式で、60 分で解くこと。 ③高槻 B 日程志願者の多くが受験する他校(灘、洛南高附、甲陽、大阪星光、洛星、神戸女学院、四天王寺、清風南海等)の中から解きやすい問題を選んで解いておくこと。 ④「答えだけを求めるときは、最小限の条件整理で手際よく解く。」「求め方を書かなければならないときは、もれなく書く。」というように状況に応じて解き方を柔軟に変える練習をすること。 ⑤途中で難しい問題があっても臆することなく、何が何でも最後の問題までたどり着くこと。

■今年の理科は！？

算数のさらなる難化に対して、易化した理科。理科の出来が合否に大きく影響した？

■出題形式

今年度（'20年度）の解答欄数は、選択32問、計算14問（計算を元にした選択問題を含めれば22問）、作図2問、知識を基にした数値を問う問題が3問の計51問という構成であった。計算を必要とする問題の割合が高いが、一つひとつの問題の難度は決して高くはない。本校を目指す受験生であれば、平易な問題が大半であったといっても過言ではない。そのため、合格者平均点が初めて男女ともに60点を越える結果となった。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	5問	7問	5問
小問数	41問	57問	51問
配点	80点	80点	80点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	72/75	75/78	77/78
受験者平均点	48.0/50.3	52.3/58.9	55.8/59.5
合格者平均点	52.8/55.1	59.5/64.3	62.6/65.7

※ 3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点が国算理の合計点の1.25倍か国算社の合計点の1.25倍のいずれかのうち最も高い点で判定。

■出題内容

- 1 理科総合 落体の跳ね返り、音速計算、水中の熱輸送と体膨張、植物の食用とする部位、ボーリング調査
- 2 物理 てこのつり合い
- 3 化学 炭化水素の燃焼計算、燃焼の3条件
- 4 生物 ハリガネムシに寄生されたバッタの行動と食物連鎖
- 5 地学 星座 観測地点による見え方の変化、日周運動・年周運動

1 昨年度（'19年度）は出題がなかった総合問題（小問集合）が今年度は復活。共学化してからの4年間で総合問題の出題がなかったのは昨年度だけなので、今後はこの形が定着するか。落体の跳ね返りの問題は算数でも扱うので、多くの受験生は、より難しい問題を練習してきたであろう。空気中・水中での音速計算は、指定されている条件を用いて計算すれば良いだけ。水中の熱輸送と体膨張の問題は、単純な知識問題。植物の食用とする部位に関する問題は、知っていて当然というもの。ボーリング調査の計算はショートテストの方が難しいレベル。最後の問題は相似に関する問題であるが、普段から相似な図形の辺の比を2通りの考え方で解く練習を積んでいれば、即答できる。2 問2、問4、問5は気づけば単純な引き算で終わる。問1、問3はパイプの重さが無い（支点やばねはかりがおもりの重さだけを支えている）としたらばねはかりが何gを示すか？ということが分かれば、比を利用して答えを出せる平易な問題。問6は共通重心の考え方が身につけている受験生であれば正解することは難しくはなかったのではないかと。共通重心の考え方を知らなかったとしても、おもりをつるす位置が少ないので、時間をかければ正解は出せるであろう。ただし、これ以降に31問の問題が待っているため、ここで時間を浪費した受験生は時間不足に陥ったか。3 問9以外は燃焼計算に関する問題。燃焼計算では、難度の高い問題が出題されることもあるが、この問題は平易。煩雑な計算もなく、素早く正確に解答していきたい。問9の燃焼の3条件に関する問題は、小6の『スーパーノート+テキスト』に同じ問題が載っている定型問題。4 問題文、図、表、グラフで与えられた条件から考えていく、最近の入試では頻出な形式での出題であるが、本校の受験者層からすると平易な問題か。ただし、時間に余裕があれば…の話である。ここまでの問題を素早く解き切ってきた、分からない問題を後回しにして時間的なロスを減らしてきた、この大問から解き始めた、という受験生であれば、満点解答も狙えたのではないかと。5 観測された星空全体を一つの円内に表した問題。このタイプの出題をされたときには問題の難度が高くなることもあるが、今回は全体として平易。観測した日時と方位がすべて記されている上に、問題で扱われている星座がすべて基本的なものだけであるため、全問正解を目指してほしい。

■合格に向けての対策

昨年度、'18年度と比べて問題は易しくなっていますが、来年度（'21年度）以降はこの3年間の平均的な難度になるのではないかと予想されます。本校の入試は、問題の難度が高くなったとしても、とんでもない難問や奇問が出題されることはない学校です。よって、夏までは『スーパーノート+テキスト』の基本的な内容の徹底理解、日曜練成講座や日進エントランスで5年生までに学習する内容の復習に集中してください。単元的に偏った出題をしてくる学校ではないので、おざなりな学習では合格は望めません。全単元において基本的事項の暗記と理解に努めてください。

秋以降は、過去問演習を進めることが必須です。目標としては8~10年分ほどを解いてください。このとき、A・B日程や前・中・後期などの日程の違いは考えずに、可能な限り多くの過去問を解いておくべきです。実際の入試問題を解きつつ、問題を解くスピード感をつかみ、問題の取捨選択の練習を意識してください。また、日進については、理科に関してだけいえば、ウルトラは必要ではなく、チャレンジでも対応は可能です。ただし、算数との兼ね合いで考えればウルトラを勧められることになり、ウルトラで学習する最難問向けの解法を使えるようになれば、高速で解けるようになる問題が出ることもある（今年度の場合であれば、2問6）ため、ウルトラの受講がマイナスになることはありません。

■今年の社会は！？

社会の実力がはつきり出る問題

■出題形式

大問数は、過去3年間では3問～4問となっており、地理、歴史、公民の分野ごとに出題されている。'16年度や'17年度に見られた3分野の融合問題は姿を消しつつあると考えられる。

小問数は、過去3年間では47問～59問とややばらつきが見られ、減少傾向にある。今年度('20年度)の47問のうち、選択式の問題は23問(並べかえ問題を含む)、用語解答の問題は23問(うち、漢字指定13問)、文章記述問題は1問であった。

分野別では、地理分野が17問、歴史分野が21問、公民分野が9問となり、やや歴史分野の割合が高くなる傾向がある。

例年、男子よりも女子の平均点が高くなっている。(例：今年度の受験生平均点は男子が49.8点、女子が51.7点)。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	3問	4問	3問
小問数	59問	57問	47問
配点	80	80	80
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	71/72	76/75	77/70
受験者平均点	48.5/52.5	55.0/59.5	49.8/51.7
合格者平均点	52.6/58.3	60.5/65.0	55.0/56.5

※ 3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点が国算理の合計点の1.25倍か国算社の合計点の1.25倍のいずれかのうち最も高い点で判定。

■出題内容

- 1 地理 日本の人口に関する様々な資料をもとにした総合問題。
- 2 歴史 「東京の歴史」に関するリード文をもとにした総合問題。
- 3 公民 「憲法改正」に関する対話文を読んで解く日本国憲法に関する問題。

1 地理分野は、例年、知識をもとに思考力・分析力を試す問題が多く、難易度は高い。今年度は人口に関する幅広い知識が必要になっていた。日本の総人口数はもちろんのこと、世界の総人口や人口の多い国、日本で暮らす外国人の人数、人口ピラミッドの変化、産業別人口割合、都道府県別の人口構成割合、昼夜間人口比率、三大都市圏の人口など様々なデータが示されていて、内容が理解できていないと解けない問題になっている。また、問4で出題されている「ひのえうま」は受験生には難しい内容だったと思われる。2 歴史分野は、特定の時代に偏ることがなく全時代から出題されることが多いので、結果として基本的な内容が中心となり、地理分野より得点は取りやすく、受験生の実力差がはつきり出ようになっていく。ただし、正誤判断問題にはやや難しい事柄が含まれているため、内容をしっかりと吟味することが必要である。問題や内容の読み間違いに気をつけ、できごとの原因や結果、各時代の基本的な流れをおさえないといけない。受験生にとって答えづらい語句(例：問8「恩賞」、問10「足軽」など)も出題されているので油断は禁物である。3 憲法改正が題材となっているように、世の中の出来事に興味・関心を持って学習できているかが試されていた。正誤判断は基本的な内容であったが、問4で憲法26条の空欄補充(「能力」に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する)ははやや難。知識よりも、文脈を読み取る力が試されていたように思う。また、近年出題されることが多い30字～40字程度の文章記述問題が問8で出題された。内容は憲法にはどのような役割があり、守らなければならない主体は何かを資料をもとに答える問題であった。憲法と法律の違いがよくわかっていない受験生には書きづらい内容であったと思われる。

■合格に向けての対策

問題のリード文が長くなる傾向があるので、時間配分に十分気をつけるなど対策をとる必要があります。基本的にはリード文よりも、各問の内容をしっかりと読めばよいのですが、今年度の3問7のように「本文の内容にあう文章を選べ」という出題もあるので読解力は必要となっています。加えて、①基本的な地名や人物名などの用語は、漢字で書けるように練習しておいてください。②地理・産業分野においては、各地の産業の特色や基本的な地名・地形に関する問題に日頃から注意を向け、出題の定番となっている用語などをしっかりおさえていくことが必要です。『日本のすがた』を使い、統計資料を頭にいれ、理由を考える学習を進めてください。また、『地図帳』を使い都道府県や都道府県庁所在都市の位置関係は把握しておきましょう。③歴史分野に関しては、例年歴史全般を問う出題傾向にあり、各時代をまんべんなく学習しておく必要があります。特に文化史や産業史に注目しておくことが大切です。資料(写真・絵)を使った出題もされるので、日頃から資料集やテキストの写真などにも目を通しておくことが重要になります。教科書にある人物名は必ず漢字で書けるようになっておいてください。④公民分野に関しては、近年は憲法に関する問題が増えています。とくに基本的な人権についての理解は深めておいてください。⑤時事問題を下地にした出題も多いので、ニュースや新聞記事から、今何が話題になっているのかということに、常日頃から注意を払っておいてください。社会学習の基本は、新聞やニュースに目を通す習慣を身に付けておくことからはじまります。⑥受験生にとって初見の資料を出すことも多いので、暗記に頼らない学習を進めてください。

高槻中学校の社会は『古今東西』・『日本のすがた』・『歴史資料』等の学習だけでなく「自分から興味を持って取り組む」ことがポイントになってきます。まずは、ショートテストの解き直しや、日曜進学教室、日曜練成講座の復習を丁寧に繰り返し、「弱点となる分野」をつくらないようにすることが合格への近道です。